

# フクシマの未来を考える

～大学生のうちに知っておくべきこと～

2011年3月11日の東日本大震災では、福島県浜通り、とくに相双地域は、津波、そして福島第一原子力発電所の事故によって甚大な被害を受けた。双葉町では東日本大震災から11年余りが経った昨年2022年8月30日、ようやく町の一部エリアの避難指示が解除され、居住が可能になり、帰還がはじまった。現在70名ほどの町民が居住している。

双葉町出身である吉田華さん(経営学科3年)は、昨年一部エリアで避難指示が解除された直後の9月1、2日にメンバーとともに現地視察に入った。この現地視察をきっかけに、復興まちづくりに対する課題を洗い出して、もう一度人が住めるようになった双葉町で、いかにしてコミュニティを創り直すかという難しい課題について考察し、論文「双葉町の再生まちづくりに必要な交流の場・コミュニティの創出」(第50回2022年獨協大学学生懸賞論文優秀賞受賞)を書き上げた。

今回は、ようやく復興のスタートを切った双葉町の復興にスポットを当て、今後の相双地域の復興まちづくりに関わる若者の視点から、双葉町の復興の課題を把握し、未来についてのビジョンを描いてみたい。



【開会挨拶】経済学部国際環境経済学科長 樋田 勉

【基調講演】「双葉町の復興の現状と課題」 双葉町復興推進課主幹 藤岡 俊之

【基調報告】「双葉町の未来～体験談と現地調査をもとに～」 経済学部経営学科3年 吉田 華

【パネルディスカッション】「若者が描く、双葉町の復興とその先の未来」

【コーディネーター】経済学部国際環境経済学科教授 米山 昌幸

【パネリスト】経済学部経営学科3年 吉田 華

(敬称略) 経済学部国際環境経済学科3年 丹野 悠太

(株)ふたば 地域デザイン事業部(外国語学部交流文化学科2023年卒) 吉野 元禪

双葉町議会議員・一般社団法人双葉郡地域観光研究協会代表理事 山根 辰洋

双葉町秘書広報課 阿部 紗耶香

双葉町復興推進課主幹 藤岡 俊之

公益社団法人福島相双復興推進機構広域まちづくりグループ 副グループ長 山崎 誠

まちづくり交流推進課参事 赤堀 直子

【閉会挨拶】環境共生研究所所長 浜本 光紹

【日時】6月28日(水) 15:30～17:10

終了後、意見交換会がありますので、お時間のある方はご参加ください。

【場所】天野貞祐記念館大講堂 事前申込不要・どなたでも参加できます

■Zoomによる参加ご希望の方は、米山<myoneyam@dokkyo.ac.jp>までメールでお問い合わせください。

【主催】国際環境経済学科・環境共生研究所

【運営】「フクシマの未来を考える」運営スタッフ